

令和 8 年度 シラバス

教科名 数学

愛媛県立宇和高等学校

数学 I

愛媛県立宇和高等学校

教 科		数 学		単位数	2	対象	生物工学科2年		
使用教科書		新 高校の数学I (数研出版)			副教材等			履修	☒ 必修・選択
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路			
演習を中心にして理解を深める。各自、家庭学習で問題を解いておかないと理解は半減する。				各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		進学希望者・就職希望者の両方に対応。			
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メ モ		
	一 学 期	第3章 図形と計量 第2節 三角形への応用		1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 三角形の面積					
		第4章 集合と命題		1. 集合 2. 命題と集合 3. 必要条件と十分条件					
	二 学 期	第5章 データの分析 演習		1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばり 4. データの相関 第1章 数と式 第2章 2次関数					
		演習		第3章 図形と計量 第4章 集合と命題 第5章 データの分析					
学 習 方 法	【授業】 毎時間の授業を大切にし、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。 【復習】 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。 【予習】 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。								
評 価 の 観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。			各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。		各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。			
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、各学期ごとに評価する。			1 学期	2 学期	3 学期	年度末		
				(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)									

数学Ⅰ・A

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学		単位数	3・2		対象	総合学科1年	
使用教科書	新編 数学Ⅰ(数研) 新編 数学A(数研)		副教材等	テーマ数学Ⅰ+A(数研)			履修	☒ 必修・選択
授業の概要			到達目標			履修の条件・進路		
基本的な計算の積み重ねをはじめ、定理・公式を理解し、問題演習によってその利用方法を確認する。			数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。			中学校の内容を確認しておく。 多くの進路に必要とされる基本科目である。 共通テストにおける数学の選択科目。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容					メ モ
	一 学 期	数学Ⅰ 第1章 数と式	第1節 式の計算	第2節 実数				
		数学A	第3節 1次不等式					
			第2章 集合と命題					
			第1章 場合の数と確率	第1節 場合の数	第2節 確率			
	二 学 期	第2章 図形の性質	第1節 平面図形					
		数学Ⅰ 第3章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ					
		数学A	第2節 2次関数の値の変化					
			第3節 2次方程式と2次不等式					
	三 学 期	第4章 図形と計量	第1節 三角比	第2節 三角形への応用				
数学A		第1節 平面図形						
		第2章 図形の性質	第2節 空間図形					
			第4章 図形と計量	第1節 三角比				
学 習 方 法		第5章 データの分析	第2節 三角形への応用					
		数学A 第3章 数学と人間の活動						
		数学Ⅰ・Aの復習						
【授業】 板書内容をノートに写すだけに終わらない。集中して自ら積極的に授業に取り組む。 【復習】 板書ノートや教科書を利用して、授業で学習した内容をその日のうちに解き直す。また、問題集を利用して、問題に慣れる。さらに、応用問題にも挑戦する。 【予習】 次の授業内容を例題を参考にして確認し、練習問題も解いて疑問点を明らかにしておく。								
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。			各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。		
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期	年度末		
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

数学Ⅱ

愛媛県立宇和高等学校

教 科		数 学		単位数	2	対象	普通科2年 I 型	
使用教科書		新数学 II（東京書籍）		副教材等		履修	必履修・ ☒ 選択	
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
基本的な内容を中心に理解を深める。 家庭学習で予習・復習をしておくこと によって、内容の定着を図る。				各学習内容について理解し、基礎的な知 識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学 的に考察し処理する能力を伸ばすとも に、それらを活用する態度を育てる。		進学希望者に対応。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メ モ	
	一 学 期	第1章 方程式・式と証明		1 節 式の計算 2 節 2次方程式 3 節 高次方程式 4 節 式と証明				
	二 学 期	第2章 図形と方程式		1 節 座標と直線の方程式 2 節 円の方程式 3 節 軌跡と領域				
	三 学 期	第3章 三角関数		1 節 三角関数 2 節 加法定理				
学習方法		【授業】 毎時間の授業を大切にし、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。 【復習】 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必 ずこなす。 【予習】 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。						
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	各学習内容における基本的な概念、原 理・法則などを体系的に理解するととも に、事象を数式化したり、数学的に解釈 したり数学的に表現・処理したりする技 能を身に付けている。		各学習内容において、数学を活用して 事象を論理的に考察し、事象の本質や他 の事象との関係を認識し統合的・発展的 に考察でき、数学的な表現を用いて事象 を簡潔・明瞭・的確に表現している。		各学習内容において、数学のよさを認 識し積極的に数学を活用しようとする態 度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて 判断しようとする態度、問題解決の過程 を振り返って考察を深めたり、評価・改 善したりしようとする態度や創造性がみ られる。			
評 価 方 法	1 学期		2 学期		3 学期		年度末	
	※上記の3つの観点を基に、 学期ごとに評価する。		(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、演習ノートなどによる到達目標の 達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的 に評価する。				1・2・3 学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

数学Ⅱ

愛媛県立宇和高等学校

教 科		数 学		単位数	2	対象	普通科 3 年 I 型	
使用教科書		新 数学 II (東京書籍)		副教材等			履修	必修修・選択
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
基本的な内容を中心に理解を深める。 家庭学習で予習・復習をしておくこと によって、内容の定着を図る。				各学習内容について理解し、基礎的な知 識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学 的に考察し処理する能力を伸ばすとも に、それらを活用する態度を育てる。		進学希望者に対応。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メ モ	
	一 学 期	第 4 章 指数関数と対数関数		1 節 指数関数 2 節 対数関数				
	二 学 期	第 5 章 微分と積分		1 節 微分係数と導関数 2 節 導関数の応用 3 節 積分				
	三 学 期	演習						
学習方法								
【授業】 毎時間の授業を大切に、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。 【復習】 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。 【予習】 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。								
評 価 の 観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	各学習内容における基本的な概念、理 由・法則などを体系的に理解するととも に、事象を数学化したり、数学的に解釈 したり数学的に表現・処理したりする技 能を身に付けている。			各学習内容において、数学を活用して 事象を論理的に考察し、事象の本質や他 の事象との関係を認識し統合的・発展的 に考察でき、数学的な表現を用いて事象 を簡潔・明瞭・的確に表現している。			各学習内容において、数学のよさを認 識し積極的に数学を活用しようとする態 度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて 判断しようとする態度、問題解決の過程 を振り返って考察を深めたり、評価・改 善したりしようとする態度や創造性がみ られる。	
評 価 方 法	※上記の 3 つの観点を基に、 学期ごとに評価する。			1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
				(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達 目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の 3 つの観点から 総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・C の 3 段階)								

数学Ⅱ・B

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	4・2	対象	普通科2年Ⅱ型
使用教科書	新編 数学Ⅱ (数研) 新編 数学B (数研)	副教材等	テーマ数学Ⅱ+B (数研)	履修	必修・選択
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路	
定理・公式の説明からその考え方を理解し、例題を通して利用方法を確保するとともに、問題演習で理解を深める。予習しておき、授業に集中しておかないと進度についていけない。		各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		数学Ⅰを履修しておく。 センター試験における数学の選択科目の一つ。理科系に進学する生徒は受験科目として必要性大。	
学 習 の 年 間 学 期 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容		メ モ
	一	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式 数学B 第1章 数列	第1節 式と計算 第1節 複素数と2次方程式の解 第1節 点と直線	第2節 等式・不等式の証明 第2節 高次方程式 第2節 円 第3節 軌跡と領域 第2節 いろいろな数列	
	二	数学B 第1章 数列 数学Ⅱ 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 数学B 第2章 統計的な推測	第3節 漸化式と数学的帰納法 第1節 三角関数 第1節 指数関数	第2節 加法定理 第2節 対数関数	
	三	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法	第2節 統計的な推測 第1節 微分係数と導関数 第3節 積分法	第2節 関数の値の変化	
学 習 方 法	【授業】板書内容をノートに写すだけに終わらない。集中して自ら積極的に授業に取り組む。 【復習】板書ノートや教科書を利用して、授業で学習した内容をその日のうちに解き直す。また、問題集を利用して、様々な問題パターンに慣れる。さらに、応用問題にも挑戦し、応用力を身につける。 【予習】次回の授業内容を例題を参考にして確認し、練習問題も解いて疑問点を明らかにしておく。				
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。		各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論理に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。
評 価 方 法	1 学期		2 学期	3 学期	年度末
	※上記の3つの観点に基づき、各学期ごとに評価する。		(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。		1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)					

数学Ⅲ

愛媛県立宇和高等学校

教 科		数 学		単位数	3	対象	普通科3年Ⅱ型理系	
使用教科書		新編 数学Ⅲ		副教材等	テーマ数学Ⅲ (数研)		履修	必修修・選択
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
定理・公式の説明からその考え方を理解し、応用問題を解くことで、その利用方法を確信する。家庭学習において予習復習をすること。				各学習内容について理解し、応用的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容を確認しておく。原則として理科系に進学する生徒は受験科目として必要大。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メ モ	
	一 学 期	第1章 関数						
		第2章 極限		第1節 数列の極限 第2節 関数の極限				
		第3章 微分法		第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数				
		第4章 微分法の応用		第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用				
二 学 期	第5章 積分法とその応用 課題学習		第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用					
	三 学 期			演習問題 総合問題				
学習方法								
【授業】 毎時間の授業を大切に、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。 【復習】 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。 【予習】 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。								
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。		各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。			
評 価 方 法			1 学期	2 学期	3 学期	年度末		
	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

数学C

愛媛県立宇和高等学校

教 科		数 学	単位数	2		対 象	普通科3年Ⅱ型	
使用教科書		新編 数学C		副教材等		履 修	必修修・選択	
授業の概要			到達目標			履修の条件・進路		
定理・公式の説明からその考え方を理解し、応用問題を解くことで、その利用方法を確認する。家庭学習において予習復習をすること。			各学習内容について理解し、応用的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容を確認しておく。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容				メ モ	
	一 学 期	第1章 平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形					
		第2章 空間のベクトル						
	二 学 期	第3章 複素数平面						
第4章 式と曲線		第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標						
三 学 期	第5章 数学的な表現の工夫							
		演習問題 総合問題						
学 習 方 法								
【授業】 毎時間の授業を大切に、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。								
【復習】 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。								
【予習】 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。								
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。			各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。		
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末		
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

実践数学

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	2	対象	生物工学科3年	
使用教科書	自作教材	副教材等		履修	必修・選択	
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路		
私立大学・短大・専門学校の入試問題や就職問題を利用して、演習で理解を深める。各自、家庭学習で問題を解いておかないと理解は半減します。		各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		数学Ⅰを履修しておく。 進学希望者・就職希望者の両方に対応。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容		メ モ	
	一 学 期	一般常識数学	比と歩合 (割合 濃度算 仕事算 水槽算 金銭計算 流水算) 数と式の計算 (通過算) 1次方程式と1次関数 (鶴亀算 年齢算 速さ・時間・距離 旅人算) 図形 (面積 体積 展開図 折り紙) その他 (SPI頻出問題)			
		二 学 期	一般常識数学	2次方程式と2次関数 不等式 三角比 指数関数と対数関数 微分と積分 場合の数と確率 順列・組合せ 確率 数列		
		三 学 期	一般常識数学	一般的な思考問題 総合問題 公務員試験対策		
学 習 方 法	【授業】板書内容をノートに写すだけでなく、集中して授業に取り組み、先生の説明を聞き逃さない。 【復習】板書ノートを利用して授業で学習した内容をその日のうちに解き直し、分からない箇所等を確認する。 与えられた課題は、先生や友人に質問するなどしてでも必ずこなす。 【予習】次回の演習問題を考えておく。できれば、参考書等を参考にし解いてみるのが良い。					
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。		各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。	
評 価 方 法	1学期		2学期		3学期	
	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、演習ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。		1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

実践数学 A

愛媛県立宇和高等学校

教 科		数 学		単位数	2	対象	普通科2年 I 型	
使用教科書		自作教材		副教材等	機能 Study-Up/ノート類(備)		履修	必履修・ ☒ 選択
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
基本的な定理・公式の考え方を理解し、例題を通して利用方法を確認するとともに、問題演習で理解を深める。必ず予習しておき、授業に集中すること。				各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		数学 I を履修しておく。 進学希望者・就職希望者の両方に対応。		
学 習 の 二 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メ モ	
	一 学 期	第1章 数と式		第1節 数と式				
				第2節 1次不等式				
				第3節 集合と命題				
	二 学 期	第2章 2次関数		第1節 2次関数とグラフ				
				第2節 2次方程式と2次不等式				
三 学 期	第3章 図形と計量		第1節 三角比					
		第2節 正弦定理・余弦定理						
三 学 期	第4章 データの分析		データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数					
数学 I の総復習		分散と標準偏差 データの相関						
学習方法								
【授業】毎時間の授業を大切にし、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。 【復習】板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。 【予習】教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。								
評 価 の 観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。			各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。			各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。			1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
				(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、演習ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

実践数学A

愛媛県立宇和高等学校

教 科		数 学		単位数	2	対象	普通科3年I型	
使用教科書		自作教材		副教材等	数学就職問題集(高教研)		履修	必修修・選択
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路		
私立大学・短大・専門学校の入試問題や就職問題を利用して、演習で理解を深める。				各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		数学Ⅰを履修しておく。 進学希望者・就職希望者の両方に対応		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容				メ モ	
	一 学 期	数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bに関する総合問題	1 方程式と不等式 式の計算 実数 1次不等式と2次方程式 2 2次関数 2次関数とグラフ 2次不等式 3 図形と計量 三角比 正弦定理と余弦定理 図形の計量					
	二 学 期	数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bに関する総合問題	1 場合の数と確率 集合とその要素の個数 場合の数 確率 2 論理と集合 命題と条件 逆・裏・対偶 3 平面図形 三角形の性質 円の性質					
	三 学 期	数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bに関する総合問題	1 式と計算 等式・不等式の証明 2 複素数と方程式の解 高次方程式 3 点と直線 円 軌跡と領域 4 三角関数 加法定理 指数関数 対数関数 5 微分係数と導関数 関数の値の変化 積分法					
学 習 方 法	【授業】 毎時間の授業を大切にし、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。 【復習】 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。 【予習】 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。							
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。		各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。			
評 価 方 法	1学期		2学期		3学期		年度末	
	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。				1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)								

実践数学B

愛媛県立宇和高等学校

教 科		数 学		単位数	3		対象	普通科3年Ⅱ型文系	
使用教科書		自作教材		副教材等	共通テスト 数学Ⅰ・A 単元別問題集 共通テスト 数学Ⅱ・B・C 単元別問題集		履修	必履修・ ☒ 選択	
授業の概要				到達目標		履修の条件・進路			
大学入学共通テストを目標に、基礎的な内容から、応用力を身につけさせる授業を展開する。問題演習を中心にした授業を行う。				各学習内容について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育て、大学入学共通テストに対応できる力を身につけさせる。		数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cを履修しておく。 大学受験で大学入学共通テストに数学が必要な生徒に適している。			
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容			メ モ		
	一 学 期	数学Ⅰ・A		・ 数と式 ・ 図形と計量 ・ 図形の性質					
		数学Ⅱ・B・C		・ 集合と命題 ・ データの分析 ・ 2次関数 ・ 場合の数と確率					
	二 学 期	数学Ⅱ・B・C		・ いろいろな式 ・ 指数関数・対数関数			・ 図形と方程式 ・ 微分・積分の考え ・ 三角関数 ・ 数列		
総合演習		・ 指数関数・対数関数 ・ 統計的な推測 ・ 総合演習			・ 微分・積分の考え ・ ベクトル ・ 数列 ・ 平面上の曲線と複素数平面				
三 学 期	総合演習		・ 総合演習						
学習方法	【授業】 毎時間の授業を大切に、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。 【復習】 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。 【予習】 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。								
評価の観点	知識・技能			思考・表現・判断等			主体的に学習に取り組む態度等		
	各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。			各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。			各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。		
評価方法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。			1学期	2学期	3学期	年度末		
				(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)									